

川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 28号 平成5年3月23日 編集・発行 川崎市立日本民家園

日本民家園「雪囲い展示」初公開

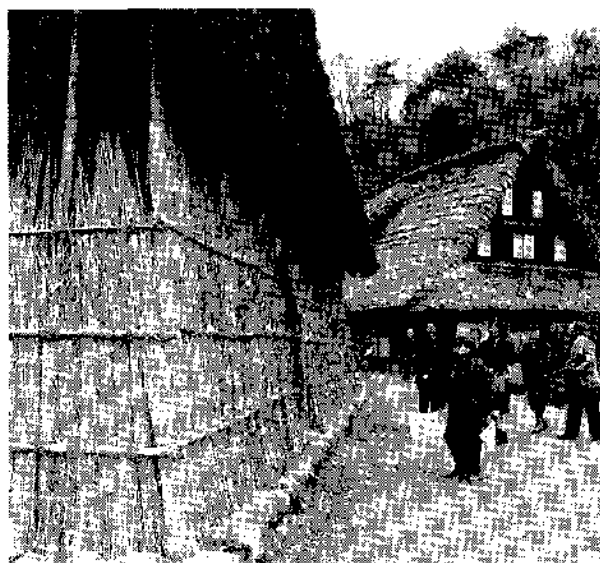
日本民家園の「信越の村」には、合掌作り民家を4件移築・復原していますが、今回その内の1件旧山田家住宅の前面に雪囲いを再現しました。この雪囲い展示は、日本民家園の年中行事の一環として初めて行う展示です。試みに今年の3月下旬まで公開いたしました。見学者からは「季節感のある展示」ということで好評を得ました。日本民家園の冬期間行事（12月～3月）として、今後も実施していく予定です。



雪囲い準備（骨組み）

◆ 越中五箇山の雪囲い

この山田家住宅のあった越中五箇山は、雪の多い地域で、年によっては4メートルも積もるといわれています。そのため11月から翌年3月頃まで、家屋敷が雪の被害を受けぬよう、また寒さを防ぐため、家の周囲に丸太や竹を支えに、茅の束を巡らせます。この場合、その茅束の上部を少し開けて明りとりとし、入り口にはオダレという茅すだれを立て掛けます。このような雪囲いのことを、この地域では「カキ（垣）」をする」といいます。



旧山田家の雪囲い展示



旧山田家のいろりに暖まる見学者

◆ 山田家の日曜日開放（2月～3月）

展示期間中の2月～3月の日曜日については、旧山田家住宅の1階部分を開放し、解説員が生活様式等を解説いたしました。

〈古民家復旧〉 重文・旧太田家住宅完成オープン

◆ 復旧までの歩み

平成2年7月29日 生田緑地からの花火の不注意により主屋の茅葺屋根に着火。

同年 文化庁の指導により復旧調査委員会を組織、焼損状態の調査と今後の対応策を審議。

平成3年～4年 復旧修理委員会を設置、復旧工事に着手。復旧工事は、古材を尊重した主屋の小屋組部分の取替作業、また取替えた焼損材を保存するための保存建設を中心に進む。

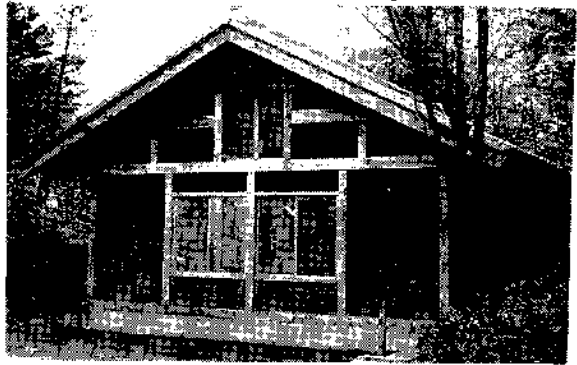
平成4年10月 復旧工事完成。

平成4年11月3日 文化の日に一般公開。

平成4年11月12日 旧所有者・太田ご夫妻が来園、復旧完成民家・保存収蔵庫を見学。



復旧した旧太田家



旧太田家の保存収蔵庫

◆ 太田家文書の整理

昭和42年11月、太田家住宅の受納にあたり、同家に伝わった近世・近代文書、約600点もあわせて頂戴いたしました。同文書はその後、未整理のままの状態でしたが、このたび修復工事の完成に伴い文書整理をすすめ、近く刊行予定の太田家修復工事報告書の中で紹介することとなりました。

現在「川崎市文化財友の会」のボランティア活動の協力を得、作業は急ピッチで進み、間もなく目録化も終了の予定です。

内容的には江戸時代の村況を伝えるものや、地租改正関係、明治期の役場文書、村の鎮守の義孝神社や楞嚴寺に関するものなど多岐に渡りますが、太田家自身の普請や屋根替の記録などは見当たらないようです。



説明を聞く太田ご夫妻

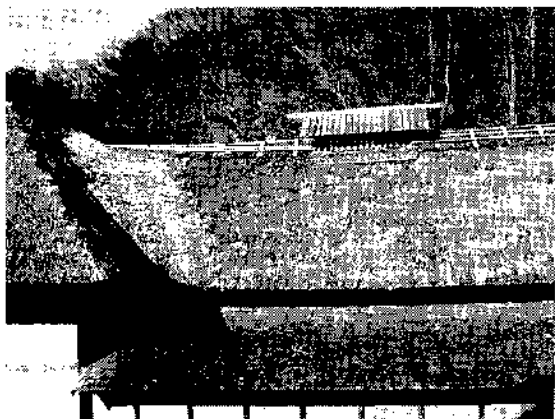


太田家文書整理風景

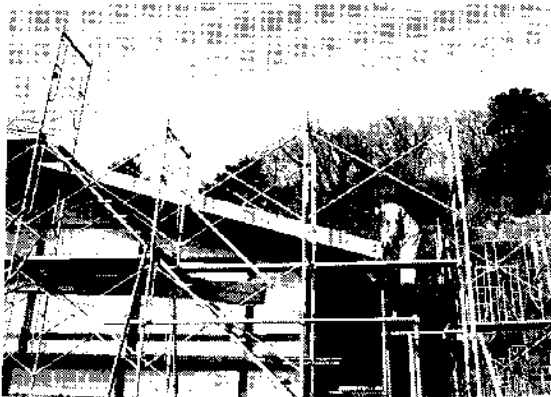
〈園内整備〉

ご協力ありがとうございました

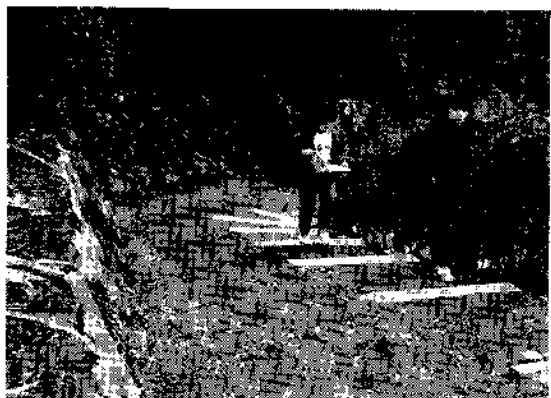
平成4年度、日本民家園内の民家や施設・設備、また園路などを整備いたしました。工事期間中はご不便をおかけいたしましたことをお詫び申し上げますとともに、ご協力に対し感謝いたします。



宿場 旧鈴木家屋根補修完了



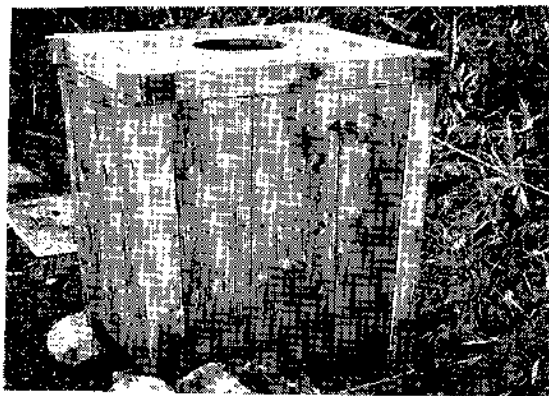
宿場 旧三澤家屋根修理（屋根板止め取付け）



宿場 旧三澤家前園路改修（片側スロープ化）



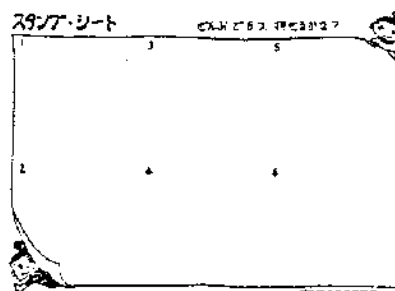
信越 入園者用トイレ新築工事



ごみ箱新調



スタンプボックス新調



〈催事報告〉

日本民家園まつり盛況裏に終了

平成4年度、第11回「日本民家園まつり」は、平成4年10月24日から11月14日まで、おおむね天候にも恵まれ、盛況のもと各種の行事を終えることができました。行事への参加協力者にたいしまして、お礼かたがたご報告いたします。

◆ 民家園講座『民家の発見と対話』

(1) 10月24日(土)

工学博士 吉田 靖「民家の発見と研究」

(2) 10月31日(土)

工学博士 太田博太郎「どんな民家が古いか」

(3) 11月7日(土)

学芸員 三輪 修三「近世の交通と宿場町」

(4) 11月14日(土)

技術職員 大野 敏「宿場の建築とその特質」

受講者43名



民家園講座(旧原家)

◆ 民家園体験学習『農具の使用体験』

(1) 10月25日(日)

むしろ・背負梯子・千歯扱き・クルリ棒・
足踏み脱穀機の使い方、藁・木の干し方

(2) 11月1日(日)

カラウス・唐箕・万石通し・篩の使い方

〈指導者〉蓬田トメ子 仲田元治 井上 学

浅田 晋 山口幸三 横山照子

参加者 28名



農具使用体験学習(旧作田家)

◆ 民家園舞台公演『川崎の民俗芸能』

11月3日(文化の日)

(1) 獅子舞

「雌獅子隠」

初山獅子舞保存会(代表 矢沢文雄)

(2) 粉屋踊

「伊勢音頭、阿波の鳴門、白舩粉屋」

栗木粉屋踊保存会(代表 飯草幸雄)

(3) 囃子神楽

「両面踊り、狐の種まき、獅子舞」

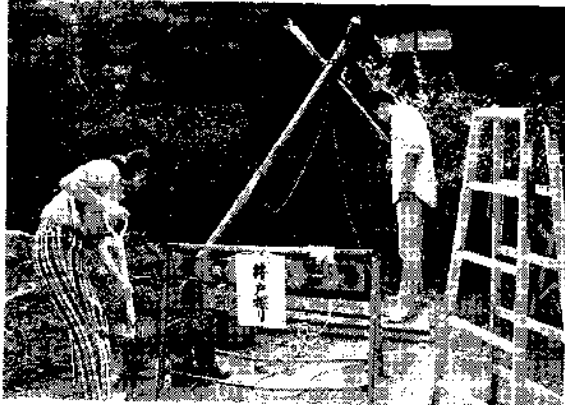
平八幡神社囃子連中(代表 山田 桂)



民俗芸能公演(旧船越の歌舞伎舞台)



彫金・木彫・市松人形の実演（旧佐々木家）



手掘井戸の実演（旧佐々木家前）



かんな削りの実演（旧佐々木家前）



民技会のわら細工実演（旧作田家）

◆ 自由参加行事『伝統技術実演会』

日本民家園まっりの期間中、自由参加行事と称し、各種の伝統技術を園内で実演公開しています。今年度は下記の団体のご協力のもと実演会を実施いたしました。

〔協力団体〕

- (1) 伝統技術技法を保存継承する会
- (2) 神奈川紙漉研究会

〈実演者〉手掘り井戸 篠崎一豊さん

木彫 井上栄政さん

彫金 関戸秀美さん

市松人形 深沢誠太郎さん

鉋削り 星 好さん

紙すき 柄戸忠二さん



手すき和紙の実演指導（旧山田家前）



年中行事展示（こきあげの祝い）旧北村家

《博物館実習》

博物館実習終わる



博物館実習生（旧清宮家・農具小屋）

実習日誌抜粋

『10日間はあまりにも短い期間でありましたが、その間さまざまな角度から「博物館のあり方」や「学芸員の仕事」というものを見せていただきました。私たちの実習内容は次の通り。

- (1) 民家園内の資料を理解すること。
職員から展示室資料・民家の解説を受ける。
- (2) 民家内に民具を展示すること。そのための
民具清掃・資料運搬・写真撮影等。
- (3) 書籍類を整理分類すること。
- (4) 見学者用のスタンプ帳を作成すること。
- (5) 体験学習会（わら細工）を手伝うこと。
- (6) 受付の仕事を手伝うこと。等

以上、これらの仕事は日本民家園においてはほんの一部にすぎないとは思いますが、短期間でこれだけの実践的な仕事にかかわらせていただき、よい勉強になりました。実習以前までの私たちの民家園に対する知識を例えていうならば、白黒写真であり、その後はカラー写真になったような感じがいたします。民家園の全体像がようやく見えはじめた頃に実習期間が終わってしまい、とても残念であるとともに、もっと積極的にいろいろな知識を身に付けたかったとも反省しています。ありがとうございました』

平成4年度、日本民家園では13大学27名の博物館実習生を受け入れました。実習生は非常に熱心に日本民家園内の実践的作業に取り組んでいました。今後、実社会でこれらの体験を生かしていくことを期待いたします。

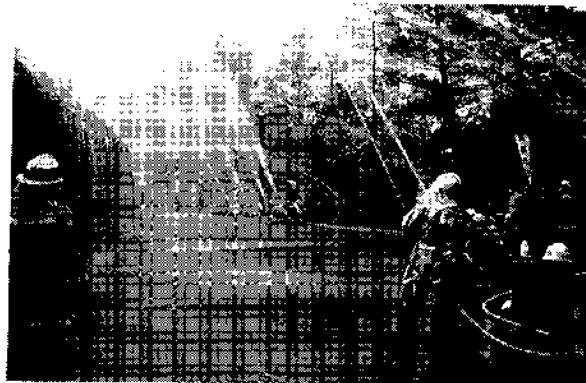
《平成4年度実習生名簿》

大規模な消防訓練を実施

文化財防火デーにあたる平成5年1月26日(火)、日本民家園において大規模な消防訓練を実施いたしました。

参加者は当職員・警備員をはじめ多摩消防署、消防局航空隊（ヘリコプター）、多摩消防団、同生田分団東生田班など総勢50名ほど。訓練は初期消火・消火栓操作・ドレンチャー放水・避難梯子操作・救護処置など、もり沢山の内容であった。

日本民家園では、平成2年、重要文化財の旧太田家住宅を一部焼損するという残念な出来事があっただけに、全員真剣にこの訓練に取り組んでいました。なお、当日は雨にもかかわらず、多くの報道機関が取材に来られ、この訓練の様子をテレビや新聞などで報道しました。



文化財防火デーの消防訓練

年中行事展示

原家の雛節供人形展示が仲間入り

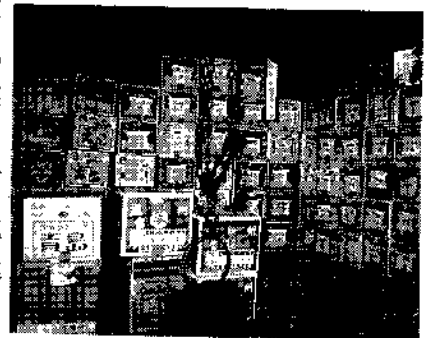
年中行事展示は、毎月、多摩文化財愛護ボランティアのご協力のもと、旧北村家住宅で実施していますが、4年度からは新たに旧原家住宅の雛節供人形の展示も、その一環として仲間入りすることになった。彩り鮮やかな雛節供人形をお子様とともに楽しんでいただきたい。

大岡文庫の整理すすむ

日本民家園は昭和63年11月、建築史家・故大岡実博士所蔵の約2万点の資料を頂戴いたしました。その内訳は、海外を含む古建築の調査ノート、自筆原稿、図面、拓本、写真乾板、建築史関係の諸文献、学術雑誌、解体修理報告書等です。

先生は日本建築史の泰斗として、建造物の調査・保存・文化財指定等に貴重な足跡を残されました。寄贈された資料はその先生の活動をあとづけるとともに、近代日本建築学史上の基本資料として、たいへん貴重なものといえます。

日本民家園ではその整理作業を随時進めております。図書文献類については分類配架作業、また調査ノート・原稿・図面等の資料類は燻蒸し、収蔵庫へ格納するという作業を行ってきました。一般公開のためには、今後これら資料の内容を1点ずつ確認、カードや目録等を作成するという大きな、根気のいる作業が残っています。目下その具体化に向け、準備中です。



燻蒸を待つ大岡文庫資料



旧原家の雛節供人形展示

〈調査報告〉雪囲い調査とその再現記録

平成4年の暮、私たちは雪囲い調査のために、雪の降りしきる飛騨・白川郷と越中・五箇山を調査した。その調査で得た資料にもとづいて、日本民家園の旧山田家住宅の雪囲い展示を実施した。なお、雪囲いは建物四周にわたるのが本来の姿ですが、ここでは前面を主体的に再現いたしました。

調査団長横浜国立大学工学部 上野 勝久先生
調査協力者

合掌の里
平村教育長

宇田 昭次さん
中川 清憲さん



茅ニウ（白川郷合掌の里にて）

〔茅の調達・保管〕 茅刈作業は、持ち山にて10月末から11月末頃までに行い、それを5～7日間ぐらい天日干しする。その後「茅ニウ」

（写真参照）をつくり保存、3月になると山からおろして「講」の取決めによってその茅を配分した。（白川）

〔雪囲いの構造〕

白川地方

〈建て地・横棧・オダレ・押え竹〉

まず建て地としての角材を軒下の桁（けた）に立て掛け、横棧で止め、オダレを押え竹で取り付ける。なお、建て地の足元は、雨落石の外縁に沿わせるのが特徴。

*オダレ 茅を2～3本ずつ編んだ簾（すだれ）

五箇山地方

〈建て地・横棧・茅束・押え竹〉

白川地方と異なるところは、オダレではなく茅束を用いること、建て地の足元を雨落石の内縁、つまり軒内に沿わせることが特色。

*より古い形式の雪囲い 茅束が濡れることを防ぐため、茅束の根元を上にし、足元には桑の枝を括りつける。

